

東京藝術大学大学院
映像研究科
平成十七年四月開設

平成十六年十二月二日、本学では、平成十七年度から新しい大学院映像研究科（修士課程）を開設することを記者発表した。

設置予定地は、横浜市みなとみらい21地区等。専攻分野は、映画専攻、アニメーション専攻及びメディア映像専攻の三分野を計画しているが、平成十七年四月に開設させるのは映画専攻のみ。

（記音業田資料からの抜粋）
映像研究科の設置経緯

明治二十年十月に設立された東京美術学校及び東京音楽学校を母体とする本学は、これまで美術と音楽に関する芸術分野の人材育成に、大きな役割を果たしてきたものと自負しています。

主だった海外の先進国は、早くから映画演劇領域をカバーする国立の教育環境を整備してきましたが、我が国では、昭和二十四年に本学が文部省に設置申請し、将来計画に掲げていたにも



関わらず実現に至らなかった経緯があります。

平成十二年に設置した「将来構想委員会」において、「新学部等の構想」の検討を行った結果、総合的な芸術大学へ向けた取り組みとして、「映像芸術」分野と「舞台芸術」分野を新たに設ける構想を推進することとなりました。「新学部等の構想」においては、両分野に共通する芸術性の根幹が「身体を介した物語の表現」であることが確認され、これまでの美術や音楽とは異なつた教育環境を整備する必要性が指摘されました。

的に流通しつる物語を基礎とした映像作品を創造するクリエイター、および高度な専門知識と芸術性を併せもつ映画制作技術者を育成することを目的としています。

カリキュラムは大別すると、自主的な創作活動と映画芸術研究の二つから構成され、それらが同時並行的に行われます。特に前者では、個人およびチーム活動により、DV、ハイビジョン、一六ミリフィルム、三五ミリフィルム

交流

大学間国際交流協定締結

九月十七日、シカゴ美術館附属美術大学（アメリカ合衆国）と本学が芸術国際交流協定を締結した。調印式には、シカゴ美術大学からアンソニー・ジョーンズ学長ほか一名、本学から平山学長、野田理事、太田和理事、井村美術学部副学部長、保科美術学部助教が出席した。

国際交流展「シカゴとニューヨーク（東京）」を

開催

九月二十四日から十月十七日まで、「Voice of Site "Tokyo-Chicago-New York"」展と題してシカゴとニューヨークの美術大学との国際交流展を開催した。大

と様々なメディアでの映画作品が間断なく制作されます。後者では、記録映画を含む映画映像表現、物語分析・理論、映画制作各領域の表現技術、他の芸術領域との比較などの研究を行います。

学生入学定員 三十二名（監督・脚本・制作領域十六名、映画制作技術領域十六名）
専任教員数 八名（教授四名、助教四名）
キャンパス 横浜市中区本町四 四四

（旧富士銀行建物）を中心とした場所において、横浜市との連携協力のもとに展開する。

映像専攻専任教員の氏名及び担当領域
北野 武 教授（監督領域・映画専攻長）
黒沢 清 教授（監督領域）
田中 陽造 助教（脚本領域）
堀越 謙三 教授（制作領域・教育主任）
栗田 豊通 教授（撮影照明領域）
磯見 俊裕 助教（美術領域）
堀内 戦治 助教（録音領域）
筒井 武文 助教（編集領域）
映像研究科長
藤幡 正樹 教授（美術学部先端芸術表現科）

旭日重光章を授与された。

澤和樹助教

英国北王立音楽院から

Fellowshipの称号

十一月二十四日、音楽学部澤和樹助教が、本学と提携校でもある英国、マンチェスターの北王立音楽院（Royal Northern College of Music）がFellowshipを授与された。同音楽院では、一九七四年以来、著名な音楽家や作曲家に対してFellow（学術特別会員）の称号を授与しているが、本学では初めて、東京芸大シンフォニア英国初公演、芸高生室内楽グループの訪問など、同音楽院との提携に尽力したことが認められたもの。

修交勲章 興仁章を
平山郁夫学長が受賞

十二月二十二日、韓国政府から平山郁夫学長に対し、大韓民国に功労が明確な者で外国人に対する叙勲である修交勲章 興仁章が授与された。

受章・受賞



秋の叙勲、福原義春理事
が受章

平成十六年秋の叙勲において、福原義春理事（学長特命担当）が

本学の音楽学部には附属高校が創設されたのは、1954年（昭和29）の4月であり、日本の音楽の早期教育の拠点の役割をはたしてきた。しかしこの附属高校の前身として、1933年（昭和8）に、本学のキャンパス内に上野児童音楽学園という施設が設置されて、本学で児童の音楽教育に取り組むはじめていたことはあまり知られていないだろう。1936年（昭和11）には上野児童学園に新たに高等科も新設されている。アカデミズムの伝統は一日ではできあがらないのは当然であろう。

一方ニュース欄に記されているように、大学大学院に、まったく新しい映像研究科が4月に新設されることになった。本学の芸術の教育と研究は、長い歴史を踏まえつつ、新しい映像という領域にも一歩を踏み出したわけである。この「藝大通信」の次号では、映像研究についての特集を組む予定で検討中です。どうぞご期待ください。

藝大通信編集長
舩山 隆

平成十四年十月からは、「映像・舞台芸術に関する授業科目の開発研究プロジェクト」として、映像・舞台芸術に関する実験授業を開講し、新学部等の構想を推進するとともに、ヨーロッパ、アメリカ、アジア地域の映画学科等を有する大学研究機関の実情調査を行い、本学の取り組みべき組織とカリキュラムについて比較検討を重ねてきました。

その結果、映画や映像については、ある程度以上の人生経験を持った学生を対象とする方が高い教育効果を期待でき、より優れた映画作品を制作することができるため、本学での教育組織は大学院が適切であるとの結論に達しました。

美術、音楽、文学、社会科学、工学などの分野で何らかの専門をもった学生や、すでに多くの社会経験を持つ人材を対象とし、一方では映像表現についての芸術的な表現力を、他方では映画制作からコンピュータ科学までの高度な専門知識を同時に身につけた人材を、持続的に社会に提供して行くことを目的としています。

「映像文化都市」を標榜する横浜市との連携協力によって設置される本研究科の新設は、このような人材育成のプログラムを普遍化するための必要条件であり、地域社会との連携など社会的な要請にも沿ったもので、本学が総合的な芸術大学への第一歩を踏み出すものです。

映画専攻の概要
映画は、二十一世紀の基幹産業と期待されるコンテンツのなかでも、中核的位置を占めるものです。平成十七年四月にスタートする映画専攻は、国際

運営

「興福寺国宝展」開催

九月十八日から十一月三日まで「興福寺国宝展 鎌倉復興期のみほとけ」を東京藝術大学、法相宗大本山興福寺、朝日新聞社主催により本学大学美術館において開催した。

平安末期の戦禍により灰燼に帰した奈良・興福寺。その復興の成果をゆかりの宝物で検証した展覧会で、無著・世親両菩薩立像（運慶一門・国宝）などの彫像と、絵画、書跡、考古資料など、興福寺に伝わる宝物を中心に、各地の寺社や博物館などが所蔵する関連の宝物を加えた六十余件が展示されたもの。期間中の入場者数は約十万人。

平成十六年度芸術祭

「祭に非ず」を実施
平成十六年度芸術祭が、九月十日から十二日の三日間、上野校地

で実施された。今回のテーマは、「祭に非ず」。御輿パレードや前夜祭オベラ、模図かずお氏と今野祐一氏による対談のほか、今年も多数のイベントが実施され、構内各所で模擬店舗が営業、展示会、演奏会が実施されるなどバラエティーに富んだ三日間の祭りは、盛況のうちに終了した。本学公式ホームページ（<http://www.geidai.ac.jp>）においてこの模様を掲載中。

平成十七年度は九月九日（金）から十一日（日）まで開催される予定。

学生主体の運営

取手校地アート・バス'04

アート・バス'04「飛べ、井の中の蛙 学生二五〇匹による作品発表」が十二月十日から十二月十二日まで、本学取手校地において開催された。オープンキャンパスの意味合いをもった、学生を中心とした展覧会で、今年も十三回目当初から学生が主体となって運営している。油画、デザイン科、先端芸術表現科、音楽環境創造科は、

授業の一環として取り組んでおり、今年度は教員も参加した。教員の作品では、日本バス友の会から借用したボンネットバスで、カメラの中に入ったような疑似体験をしながら取手を観光する「サイト Seeing バスカメラ」が取手駅とのシャトルバスとして利用され、注目を集めていた。



展覧会・演奏会の最新情報は、東京芸術大学公式ホームページ（<http://www.geidai.ac.jp>）をご覧ください。

展覧会についてのお問い合わせ
東京芸術大学美術館 Tel 03-5685-7755
NTTハローダイヤル Tel 03-5777-8600

演奏会についてのお問い合わせ
東京芸術大学音楽学部演奏企画室 Tel 03-5685-7700

演奏会チケットの取り扱い
チケットぴあ Tel 0570-02-0990
東京文化会館チケットサービス Tel 03-5815-5452
東京芸大大学美術館ミュージアムショップ Tel 03-5685-1176